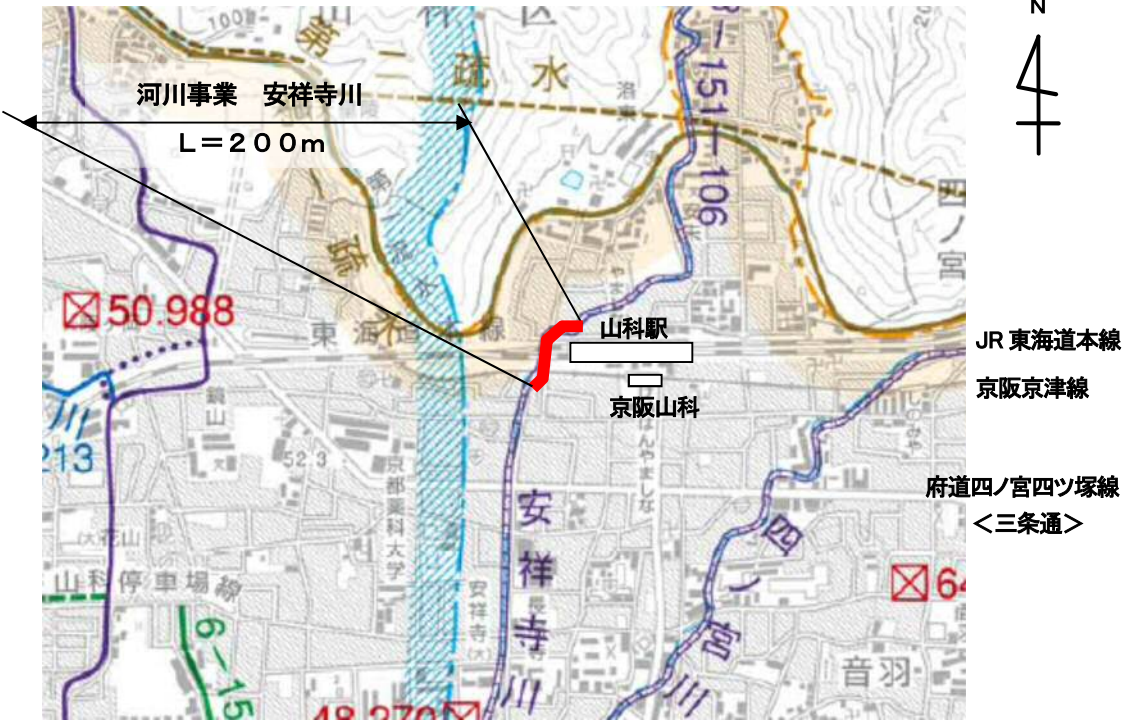


平成30年度新規採択事業 評価調書

(平成29年度 新規採択時評価実施)

事業の概要

事業名	河川事業 安祥寺川		
事業区間	自：京都市山科区御陵鳥ノ向町 至：京都市山科区御陵田山町	延長，幅員又は面積	延長L=200m 幅員W=3.5m
総事業費	3,800百万円	完成予定年度	平成44年度
事業概要 (目的・内容等)	一級河川安祥寺川は，大文字山に源を発し，山科区安朱地域を流れ，山科川へ注ぐ延長2.9km，流域面積4.3km²の河川である。流域のうち，0.7km²を占める平地部では，市街化が著しく進行していることから，雨水流出量が増加し，治水安全度が低下している。 このような中，平成25年9月に発生した台風第18号に伴う大雨により，甚大な浸水被害が発生している。 このため，本事業は，台風第18号と同規模の大雨が発生した場合でも，浸水被害が生じないように，JR東海道本線及び京阪京津線を横断する水路トンネルを新設し，流下能力の向上を図るものである。		
箇所図			

事業を巡る社会経済情勢等

社会背景と今後の動向	平成25年9月に発生した台風第18号に伴う大雨により、安祥寺川及び四宮川が氾濫し、91件の床上・床下浸水のほか、溢水した水が御陵駅に流入し、地下鉄東西線が4日間運休するなど、甚大な浸水被害が発生した。 平成28年9月には、「京都市長と京都府知事との懇談会」において、京都府が四宮川、京都市が安祥寺川の整備に向けて検討を進めていくことが確認された。
市民ニーズ	台風第18号に伴う大雨による浸水被害は、市民生活に甚大な影響を及ぼしたことから、早期の治水安全度の向上が求められている。

上位計画から見た事業の有効性

京都市基本計画	事業ごとの上位計画	具体的な効果等
☐ うるおい ☐ 活性化 ☐ すこやか ☒ まちづくり ☐ 行政経営の大綱	・「はばたけ未来へ！ 京プラン」実施計画第2ステージ ・京都市河川整備方針	河川断面の拡幅により疎通能力が向上するため、大雨時の浸水被害が軽減する。

事業の要件

環境景観への配慮事項	本事業は、都市部の貴重な水辺である現況河川を残しつつ、新たに水路トンネルを整備することで、現況河川環境への影響を低減する。
市民と行政のパートナーシップ	事業着手前をはじめ、適宜、地元説明会を開催するなど、積極的に情報発信し、地域住民の理解を得ながら事業を進める。

事業の評価結果

評価	A
理由	安祥寺川の流域では、平成25年9月に発生した台風第18号に伴う大雨により浸水被害が発生し、市民生活に甚大な影響を及ぼしたことから、早期の治水安全度の向上が求められている。 河川断面の拡幅により、疎通能力が向上し、大雨による浸水被害を軽減することができる。

評価指標の算定結果

費用便益比（CBR）	46.89
------------	-------

事業の必要性

評価軸	評価項目	客 観 的 評 価 指 標
お う い る	環境	☐ 当該事業区間での改修により ph, BOD, SS 等の水質浄化に寄与する ☐ 生態系に配慮した計画である
お う い る	歩くまち	☐ 河川敷緑地空間が向上する ☐ 河川敷の散策等への活用が可能となる
	土地利用と都市機能配置	☐ 計画の各プロセスにおいて関係する地域住民と情報を共有している
	景観	☐ 景観に配慮した計画である ☐ 当該事業区間での改修により親水性が向上される
	道と緑	☐ 当該事業区間での改修により背後住宅地の通風・採光の向上につながる ☐ 浸水想定区域内における河川改修の進捗により宅地開発・大型店舗出店が見られる
	くらしの水	☐ 地震・火災等の災害時に非常時の生活用水・消火用水を確保可能とする階段工, 斜路工, 取水ビットが設けられる ☐ 地震・火災等の災害時に河川空間を避難地, 延焼緩衝帯, 避難経路としての活用が可能となる ■ 計画流量は現況からの向上率が高い ☐ 堤防の断面拡大, 護岸の緩傾斜化による安全性が向上する ■ 改修目標流量に対する現況流下能力の割合(最も厳しい部分で 37%) ■ 現況の治水安全度(5 年未満程度) ■ 過去 10 年間の床下浸水回数(1 回) ☐ 過去 10 年間の水防活動の回数(0 回) ■ 浸水想定区域内人口(19,039 人) ■ 浸水想定区域内の災害時要援護者数(6,172 人) ☐ 想定死者数(0 人) ■ 最大孤立者数(238/138/46)※左から避難率 0%,40%,80% ☐ 機能低下する医療・社会福祉・防災拠点施設数(0 箇所) ■ 浸水想定区域内の工業用地, 農業用地, 商業用地の面積(34.0ha)

評価軸	評価項目	客 観 的 評 価 指 標
まちづくり	くらしの水	☐ 途絶する主要な道路、鉄道（０本） ☒ 電力停止による影響人口（１８８人） ☐ 浸水する地下鉄の路線、駅、地下施設等（０箇所） ☐ 浸水する歴史的建造物や文化施設等（０箇所） ☒ 浸水する宿泊施設客数（７６人） ☒ 水害廃棄物の発生量（６８８t） ☒ 水害廃棄物の処理費用（１９，２５３千円） ☒ 浸水想定区域内に大学・学術研究機関が含まれる ☐ 多自然川づくりを採用している ☐ イベント・スポーツ等の開催場所として河川敷の活用が可能となる ☐ 当該事業区間の河川敷（又は隣接する道路）が観光地（施設）等を含んむ観光ネットワークである ☐ 当該事業計画流域内における河川改修の進捗により下水道整備が促進する
行政経営の大綱		☐ 審議会、委員会を通じ地元意見を反映させ事業を進めている ☐ 計画段階から市民参加により事業を進めている